

尊い生命を守る。

カホスイミングは「五つの理念」の第一、「尊い生命を守る」ため、水難事故防止目的の着衣泳授業を1995年から現在まで毎年、年に2回実施しています。



地域での着衣泳指導実績

飯塚市立庄内小学校、飯塚市立若菜小学校、飯塚市立飯塚東小学校、桂川町立桂川東小学校

着衣泳指導員資格者 大保 秋山 小林 工藤 大野

学び

「三本の柱」①選手作り ②健康づくり ③人づくりの目標・実現に向け、海外の水泳を学び水泳スポーツの普及と振興に努めてまいります。

セントピーターズウエスタンスイミングクラブ

場所:フォーチュード バリー



レッスン中

練習は1日2回練習。

1回目は午前5時半から、2回目は学校終了後に練習。1回の練習時間は2時間。練習量は時期によって異なるが、1日に約8,000m以上泳ぐ。対象は大学生から中学生の約50名で、中高一貫の私立学校の公認50mプールで練習。



レッスン中

水中練習の他に補強も実施。補強でヨガをとり得ている。とにかく泳ぎの面では身体が軸が全くぶれない。体幹の強さを感じた。クロールに関しては、オーストラリアンクロールと呼ばれているほど、全員同じ泳ぎを習得。

着衣泳の本場オランダ研修視察に学ぶ。

今後も「ディプロマ」を学び、努力し、地域社会へ普及活動を行ってまいります。



初歩背浮きの練習



立飛込みの練習



着衣泳指導員 大保

世界には様々な「水泳」があり、1つではないことを学びました。しかし、「尊い命を守る」子供たちのために「は、世界共通の願いですね。「水泳」に携わる者として、未来のスイミングスクールのあり方とは、そして、今後我々に何が出来、何をを目指すかが見えた思いです。

水泳に対する経緯と考え方	日本	オランダ
近代水泳の目的・文化・始まり	「競泳志向」 1964年東京オリンピックでの成績確保のため、スイミングクラブが始まった。	「命を守る」 海抜より低い土地が多く、運河に囲まれた生活の中で、水難事故から身を守ることを目的にスイミングクラブが始まった。
スイミングクラブへの参加	幼児・低学年の習い事の中でスイミングクラブは1位だが、その参加率はまだまだ低く20%程度と思われる。また、島国日本だが、全体で泳げない人の割合は圧倒的に多い。	幼児から小学生低学年の参加率は95%。しかも最終の目的達成までほぼ辞めない。そしてオランダ人はほぼ全員泳げる。長い休暇を取る文化があり、寒い国のオランダ人は暖かい場所に行き、水に入る機会が多くなるからという。
水難事故・水難者数比較	年間1,505件の内、水難者は1,742人。この内中学生以下の子どもは217人	オランダ人は0人。年間2~3件の水難事故は、オランダ在住の外国人によるもの。
練習の内容と評価	多くは、日本水泳連盟が定める泳法(クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ、個人メドレー)の習得が泳力評価となっている。	1892年頃に基盤ができ、第2次大戦後「ディプロマA・B・C」という評価基準が確立され、国の指針となっている。その内容は、着衣(最終は、長袖シャツにジャケット、長ズボン、運動靴)での飛込み、立ち泳ぎ、潜行、障害物、水中での回転、平泳ぎ、背泳ぎ、クロール、etc。

2つのスイミングクラブで7日間 海外〈オーストラリア〉研修実施

コマーシャルスイミングクラブ

場所:インドロベリー



コマーシャルスイミングは、歴史のあるクラブ。数多くのオリンピック選手を輩出している有名クラブ。現在、100m クロール世界新記録をもっているキャンベル姉妹が練習。身体が大きく、手足が長く、大きなストロークで滑るように泳ぐ。泳ぎ全体に無駄がなく、身体が軸がぶれないで泳ぐ体幹の強さは凄い。



レッスン中

オリンピック選手を多く輩出しているが、ナショナル突破選手も多く在籍している。クラブには小学低学年から大学生まで在籍。ジュニア時代からオーストラリアンクロールを指導。陸上での補強も週に2回行っている。体幹強化も取り入れている。



選手クラスコーチ 秋山

今後、優秀な選手育成に特に3点を強化し、活かしていきます!!

- ① 軸がブレない泳ぎ、体幹強化
- ② 大きなストロークと力強いキック力
- ③ メンタル面強化

★選手クラス主要出場試合★

- ・2008年度 日本選手権水泳競技大会
- ・JAPAN OPEN 2008
- ・オリンピック競技大会(2008/北京)
- ・日本高等学校選手権水泳競技大会競泳競技
- ・国民体育大会水泳競技大会
- ・全国JOCジュニアオリンピックカップ春季・夏季 (16年連続出場)
- ・国民体育大会水泳競技会
- ・日本高等学校選手権水泳競技大会
- ・全国中学校水泳競技大会 etc.

